



くらしの声 インタビュー 団地の主婦は今...

豊栄市は二十数年来、急速に宅地開発が進みました。かつては田園地帯であった所に、住宅やアパートが続々と建ち並び、新しいベッドタウンが誕生しました。そこへは、市外からたくさん人が移り住み、市の人口も著しく増えました。

今月号は、新興住宅地の主婦をたずね、日ごろの住みごこちや暮らしのようす、生活の中の要望などを聞いてみました。



柳原の
貝瀬万里子さん (33歳)

欲しい大型の書店

周りを見て感ずることは、「みんな夫婦仲がいいなあ」ということです。小さい子供さんがいて、新しいマイホームを手に入れて、生活の基盤ができたためでしょうかね。

数少ない市内の勤め口
住宅ローンの返済といった経済的な事情からか、近い所に勤めたいという奥さんが結構いますね。私も新発田の職業安定所へ行っただけですが、求職者ばかり多くて求人ほとんどないんですよ。子供



朝日町の
中村喜美子さん (33歳)

の保育料ぐらいはかせぎたいと思って、車で婦人ものの訪問販売をしているんです。

生まれは上越市で、前は社宅に住んでいましたが人間関係が難しかったですね。ここは隣近所ぢよっとした物の貸し借りをしたり市から買って来た品物を山わけしたりで、自分の性格にピッタリ合っています。車の通日も少ないし眺めもよくなって、住めば都です。

金額のまとまった買物になると新発田の方へ行きますが、市内にも大型デパートがあるといいですね。



豊栄団地の住宅展示会場

子育てにはいい環境



尾山ニュータウンの
関口 紀子さん (24歳)

主人も私も東京の生まれで、新潟にはこれといった親類がいません。だからお産の時は、二回とも主人だけ残して三か月程東京に戻ったんですよ。

お米も空気もおいしくて、家の

周囲には土があって、子育てにはいい環境ですね。東京でこんな所を求めようと思っても、まず無理です。

でも、主人の会社は東京が本社なので、いつかは東京へ戻ります。その時は、家も人に売るか貸すかしなければと思うと残念でなりませんね。手離したくないんですよ。

今思っていることは、子供の健康診断や市日の買い物に不便なので葛塚まで乗り換えなして行ける、直通バスを通して欲しいことです。



早通北5丁目の
今田ヤヨエさん (39歳)

近くの工場へパート勤め

今入っているアパートは最近の型で、一階は四DKに庭が付いているんです。家賃は月三万三千五百円と高いんですが、内部の間取りや設備は、都会のマンション並みだと人は言ってるんです。

三人の子供も大きくなってきて、自分の家を持ちたいという気はあるんですが、現実の生活や後々のことを考えたりして、まあ現状に甘んじています。

数年前から近くの電子関係の工場へパート勤めしています。一時間当たりのお金は安いですが、お昼あがりができるし、子供の用事や家の用事ができた時も休まれて便利です。早通団地の人がおおい勤めています。

駐車場が足りなくて路上駐車が多く、火災の際は心配ですね。



早通南4丁目の
笠原 テルさん (53歳)

自由が団地の魅力

早通へ来てから、もう十三年たちます。長男も昨年結婚し、二夫婦で暮らしています。近所でも二世帯同居の家が目立ってきたようですね。自分のふるさと、という意識が定着してきたんでしょうか。

越してきた当時、仲間づくりをするため婦人会をつくりました。今、五十五人程の仲間ができて、たまに私が会長をおおせつかっています。親睦を兼ねて活動していますが、会員の中には華道・茶道などさまざまな先生がいるんですよ。

団地は自由なところがいいですね。古くからの束縛やしがらみのようなものがないんです。みんなが平等の立場で思うことを何でも言えるんです。いろんな意見や要望は大事なんです。それをうまくまとめいくのは難しいですね。